

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	言語聴覚療法管理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	401教室
担 当 教 員	中野千秋 高田晃宏 柚野貴子 藤本光輝 浜田広幸	実務経験と その関連資格	(中野)医療機関現場実務経験30余年/ 個人情報保護管理責任者			
《授業科目における学習内容》						
言語聴覚士に必要な医療・介護・福祉・教育分野の法令および制度を体系的に学ぶ。医療保険、介護保険、障害福祉制度等の概要に加え、医療安全、多職種連携およびリハビリテーションマネジメントについて理解し、臨床現場で適切に制度を活用できる基礎的能力を養う。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト100% (試験素点が60点以上を合格とする)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
参考図書: 言語聴覚士テキスト第4版(医歯薬出版) 標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法管理学(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
(中野) 毎回の授業内容について配付資料および関係法令を復習し、各制度の目的、対象者、実施主体および主なサービス内容を整理すること。また、言語聴覚士国家試験過去問題を活用し、授業で学んだ内容の理解度を確認するとともに、誤答した問題については、その根拠となる法令や制度を再確認すること。さらに、日頃から医療・介護・福祉分野に関するニュースや制度改正にも関心を持ち、授業内容と関連付けながら主体的に学習することが望ましい。						
《履修に当たっての留意点》						
(中野) 本科目では、法令や制度を暗記するだけでなく、臨床で適切に活用できることを目標とする。事例検討や演習に積極的に取り組み、制度と実務との関係を意識して学習してほしい。担当教員の病院管理実務や臨床事例も取り上げ、制度と実務との関連について理解を深める。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法管理学を学ぶ意義を理解するとともに、日本の医療制度および法体系の概要を説明できる。また、言語聴覚士が医療・介護・福祉・教育分野で果たす役割を理解できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	日本の医療制度および法体系を整理し、関係法令を確認する。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、本科目の目的、日本の医療制度、法体系、言語聴覚士に関係する主要な法令・制度を概観する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士法の目的および内容を理解し、業務範囲、医師の指示、守秘義務および専門職倫理について説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	主要条文を確認し、専門職としての責任を整理する。	
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士法、免許制度、業務範囲、医師の指示、守秘義務および倫理的課題を学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療法の目的および医療提供体制を理解し、チーム医療における言語聴覚士の役割を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	急性期から在宅までの役割を比較する。	
		各コマにおける授業予定	医療法、病床機能、地域医療構想およびチーム医療について学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康保険法および国民健康保険法の仕組みを理解し、診療報酬制度と言語聴覚療法との関係を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	医療保険制度と診療報酬項目を復習する。	
		各コマにおける授業予定	健康保険法、国民健康保険法、後期高齢者医療制度、診療報酬制度および言語聴覚士関連項目を学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	診療報酬制度および質管理の考え方を理解し、評価・記録・実施計画の重要性を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	診療記録と実施計画書の役割を整理する。	
		各コマにおける授業予定	診療報酬制度、疾患別リハビリテーション料、評価、記録、実施計画、PDCAサイクルを学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険法を理解し、地域包括ケアシステムにおける言語聴覚士の役割を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	介護保険制度と医療保険制度の違いを整理する。
		各コマにおける授業予定	介護保険法、要介護認定、介護サービス、地域包括ケアおよび退院支援を学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害者基本法および障害者総合支援法を理解し、障害者支援制度を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	障害福祉サービスの内容を整理する。
		各コマにおける授業予定	障害者基本法、障害者総合支援法、障害福祉サービスおよび意思疎通支援を学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童福祉法および学校教育法を理解し、小児領域における支援体制を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	各支援機関の役割を整理する。
		各コマにおける授業予定	児童福祉法、児童発達支援、学校教育法、特別支援教育を学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	老人福祉法および高齢者虐待防止法を理解し、権利擁護の重要性を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	権利擁護制度を整理する。
		各コマにおける授業予定	老人福祉法、高齢者虐待防止法、成年後見制度、認知症施策を学ぶ。		
第10回	講義・演習形式	授業を通じての到達目標	医療法および個人情報保護法を理解し、医療安全とリスクマネジメントを説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	医療安全対策を復習する。
		各コマにおける授業予定	医療安全、感染対策、個人情報保護、インシデント対応について事例を交えて学ぶ。		
第11回	講義・演習形式	授業を通じての到達目標	多職種連携における言語聴覚士の役割を説明し、専門職として適切な行動を考察できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	症例を基に各職種の役割を整理する。
		各コマにおける授業予定	カンファレンス、退院支援、地域連携を題材に多職種協働を学ぶ。		
第12回	講義・演習形式	授業を通じての到達目標	本科目で学んだ法令・制度を統合的に理解し、臨床での活用方法を説明できる。	担当教員作成資料、講義スライド、関係法令、国家試験過去問題	国家試験過去問題で本科目全体を復習する。
		各コマにおける授業予定	主要法令の総復習、症例演習、国家試験形式問題による確認を行う。		
第13回	講義・演習形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士のキャリア形成の意義と自己研鑽の方法、生涯教育プログラムについて理解することができる。	プリント 就職活動ガイドブック	事前学習： 就職活動ガイドブックを読む 事後学習： 配布プリントから重要ポイントを確認する
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士としてキャリアアップするためのさまざまな手段を学ぶ。		
第14回	講義・演習形式	授業を通じての到達目標	キャリア形成の一環として就職活動の流れを理解することができる。履歴書・面接で自己をアピールすることができる。	就職活動ガイドブック プリント	事前学習： 就職活動ガイドブックを読む 事後学習： 配布プリントから重要ポイントを確認する
		各コマにおける授業予定	逆算思考での就職活動を学ぶ。 就職活動における自己分析の必要性を学ぶ。		
第15回	講義・演習形式	授業を通じての到達目標	キャリア形成の一環として履歴書の各項目・書き方について理解することができる。	就職活動ガイドブック プリント	事前学習： 就職活動ガイドブックを読む 事後学習： 配布プリントから重要ポイントを確認する
		各コマにおける授業予定	履歴書の書き方を学ぶ。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	言語聴覚療法管理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	401教室
担 当 教 員	中野千秋 高田晃宏 柚野貴子 藤本光輝 浜田広幸	実務経験とその関連資格	(中野)医療機関現場実務経験30余年/ 個人情報保護管理責任者			

《授業科目における学習内容》

言語聴覚士に必要な医療・介護・福祉・教育分野の法令および制度を体系的に学ぶ。医療保険、介護保険、障害福祉制度等の概要に加え、医療安全、多職種連携およびリハビリテーションマネジメントについて理解し、臨床現場で適切に制度を活用できる基礎的能力を養う。

《成績評価の方法と基準》

学期末テスト100%（試験素点が60点以上を合格とする）

《使用教材(教科書)及び参考図書》

参考図書:言語聴覚士テキスト第4版(医歯薬出版)
標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法管理学(医学書院)

《授業外における学習方法》

(中野)毎回の授業内容について配付資料および関係法令を復習し、各制度の目的、対象者、実施主体および主なサービス内容を整理すること。また、言語聴覚士国家試験過去問題を活用し、授業で学んだ内容の理解度を確認するとともに、誤答した問題については、その根拠となる法令や制度を再確認すること。さらに、日頃から医療・介護・福祉分野に関するニュースや制度改正にも関心を持ち、授業内容と関連付けながら主体的に学習することが望ましい。

《履修に当たっての留意点》

(中野)本科目では、法令や制度を暗記するだけでなく、臨床で適切に活用できることを目標とする。事例検討や演習に積極的に取り組み、制度と実務との関係を意識して学習してほしい。担当教員の病院管理実務や臨床事例も取り上げ、制度と実務との関連について理解を深める。

授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義 授業を通じての到達目標	組織、マネジメント、人事労務管理等の概論について理解する		プロジェクター スピーカー 教科書 配布プリント	指定した教科書、資料等を事前に読んでおく
	各コマにおける授業予定	組織とマネジメント、人事労務管理			
第17回	講義 授業を通じての到達目標	組織とマネジメントについて理解する。		プロジェクター スピーカー 教科書 配布プリント	指定した教科書、資料等を事前に読んでおく
	各コマにおける授業予定	組織とマネジメント概論			
第18回	講義 授業を通じての到達目標	ST、社会人として必要な倫理について理解する。		プロジェクター スピーカー 教科書 配布プリント	指定した教科書、資料等を事前に読んでおく
	各コマにおける授業予定	インフォームドコンセント、摂食嚥下障害の倫理、職業倫理、研究倫理			
第19回	講義 授業を通じての到達目標	医療・介護・福祉分野における業務について理解する。		プロジェクター スピーカー 教科書 配布プリント	指定した教科書、資料等を事前に読んでおく
	各コマにおける授業予定	診療情報、診療記録、関連帳票、診療報酬、STの対象疾患、施設基準			
第20回	講義 授業を通じての到達目標	災害リハビリテーションについて説明できる		・PCスライド ・配布資料	特になし
	各コマにおける授業予定	災害リハビリテーションの基本概念について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚士の災害支援活動について説明できる	・PCスライド ・配布資料	特になし
		各コマにおける授業予定	言語聴覚士の災害支援活動、及び避難所での役割について学ぶ		
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法部門のマネジメントについて説明できる。	講義スライド 配布資料	参考図書の通読
		各コマにおける授業予定	フォロワーシップとリーダーシップについて学ぶ。		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	言語聴覚療法管理学について包括的に振り返り、信頼される言語聴覚士として働くために必要な内容であることを説明できる。	講義スライド 配布資料	参考図書の通読
		各コマにおける授業予定	言語聴覚療法管理学について包括的に振り返り、信頼される言語聴覚士として働くために必要な内容を学ぶ。		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			